

富津市学校給食運営委員会議会議録

1 会議の名称	平成 28 年度第 3 回富津市学校給食運営委員会議
2 開催日時	平成 29 年 2 月 17 日 (金) 午後 1 時 25 分～ 2 時 30 分
3 開催場所	富津市役所本庁 2 階 第 2 委員会室
4 審議等事項	(1) 富津市学校給食施設整備について (2) その他
5 出席者名	(委員) 平野順子、牧田正彦、千倉淳子、田中計、 和田俊昭、川名賢、石井聡、芥子剛尚、高橋光二、 金瀬陽子 (事務局) 岡根教育長、能城教育部長、鶴岡教育総 務課長、吉原給食係長、立石主査、桑田主任主事、 川名非常勤職員、中島非常勤職員
6 公開又は非公開の別	公開 ・ 一部非公開 ・ 非公開
7 非公開の理由	富津市情報公開条例第 23 条第 号に該当 (理由)
8 傍聴人数	0 人 (定員 5 人)
9 所管課	教育部 教育総務課 給食係 電話 0439 (80) 1343
10 会議録 (発言の内容)	別紙のとおり

平成 28 年度第 3 回富津市学校給食運営委員会議 会議録

発 言 者	発 言 内 容
吉原給食係長	<p>平成 28 年度第 3 回富津市学校給食運営委員会を開会する。 本日は、委員 10 名全員の出席なので、富津市学校給食調理場管理運営規則第 11 条第 2 項の規定により会議が成立する。 また、本会議の内容については、富津市情報公開条例第 23 条の規定により公開となる。</p>
平野委員長	<p>【委員長挨拶】</p>
岡根教育長	<p>【教育長挨拶】</p>
吉原給食係長	<p>会議次第「4 議題」に入る。 富津市学校給食調理場管理運営規則第 11 条第 1 項の規定により委員長が議長となるため、会議の進行をお願いする。</p>
平野委員長	<p>規則に基づき議長を務める。 本日の会議録署名人は、川名賢委員をお願いする。 議題（1）「富津市学校給食施設整備について」事務局の説明を求める。</p>
吉原給食係長	<p>学校給食施設整備について説明する。 前回会議において質問、意見があった件について答える。 「他自治体の 3,000 食規模の調理場と比べ、工事費の規模はどうか。」という質問だが、資料を提供してもらえた団体の概要をまとめたので資料 2 で説明する。 「市ではどのくらいの費用が出せるか。」という質問だが、市の財政担当と協議したところ、富津市全体の収支のバランスを見たくて起債も含め計画する必要があるとのことで、現時点でいくら準備できるか算出することはできないとのことだった。 「絶対必要な設備、できれば欲しい設備、ぜいたくと思われる設備と段階に分けて説明してほしい。」との意見だが、業務用厨房機器業者に相談したところ、できれば欲しい設備というのは、必要な設備に含まれるのではないかということで、必要な設備か又はぜいたくと思われる設備を要しているかで試算したので資料 1 で説明する。 「2,000 食、2,500 食、3,000 食の場合の工事費を出してほしい。」との意見だが、こちらも資料 1 で説明する。 資料 1 - 1 「新築・改修の比較」を説明する。 前回会議で四つの案を示した。概算工事費とランニングコストを加え、評価が高いと思われる順に二重マル、マル、サンカク、バツとした。</p>

概算工事費だが、案1はぜいたくと思われる設備を要した施設を①付加価値設備を要した施設、必要な設備のみの施設を②付加価値設備を要していない施設として算出した。

算出条件は、①は児童生徒の食育の観点からは必要と思われるが、給食の調理には直接影響がないので、ぜいたくと思われる設備とした。②は衛生管理を充実させるための整備とされているので、必要な設備とした。案2・案3・案4は改修となるので、付加価値設備を要していない施設として算出している。

資料1-2から1-4は、概算工事費の内訳となっているので後ほど見ていただきたい。

概算工事費の評価は、費用負担の少ない順から高い評価とした。

次に、ランニングコストだが、食数から見積もり、3,000食の試算で比較した。

評価は、費用負担の少ない順から高い評価とした。

次に、施設使用可能年数だが、前回の資料と同様に富津市公共施設等総合管理計画にある建物の耐用年数を参考としている。建物に対する耐用年数とし、更新目安は、設備が15年、機械が10年と聞いている。案3・案4は25年後には建替又は移転、新築が必要となる。

次に、学校給食衛生管理基準への適合だが、案1は新築のため、案2は全面改修のため基準に適合する施設とする。案3は衛生管理基準に最大限適合させるとし、調理室のドライシステム化の整備や調理室の冷房機能の整備を想定している。案4は衛生管理基準に最低限適合させるとするので、調理室のドライシステム化の整備はせず、専用便所の整備等を想定している。

評価は、衛生管理基準を満たす順から高い評価とした。

次に、食物アレルギーへの対応だが、案1は食物アレルギー専用の調理室を準備し、食物アレルギーを有する児童生徒への給食対応ができるようにする。案2は食物アレルギーへの給食対応ができるよう調理台を別にするなど専用コーナーを準備する。案3・案4は施設規模はそのままとなる。現在の調理場では食物アレルギーに対応する調理スペースがないので、食物アレルギーへの給食対応はできない。

評価は、食物アレルギーへの対応可能な順から高い評価とした。

次に、工事期間中の給食業務の対応だが、案1は既存施設で調理ができるので、建設中でも給食を提供することができる。案2・案3・案4は既存施設の改修となるので調理場を使用することができなくなり、給食の提供を一時中断することになる。工事期間中、弁当対応となってしまい、保護者への負担や衛生管理上の問題等が予想されるので、案1は高い評価とし、案2・案3・案4は低い評価とした。

最後に総合評価だが、各評価から判断し、案1「移転・新築」、案3「中規模改修」、案4「長寿命化改修」、案2「大規模改修」

	<p>の順とした。</p> <p>資料2「同規模食数調理場建設概要」を説明する。</p> <p>富津市の食数と異なるところもあるが、県内の南房総市といすみ市の資料があったので記載した。</p> <p>建設費用は、建設当時とは消費税率や建築資材等の物価も異なるので、比較対象というよりは目安として提出する。</p> <p>安全で安心な給食を提供するためには、学校給食衛生管理基準に準拠した機能的な施設が必要である。多額の費用が必要となってしまうが、子供たちの安全を最優先とし、一番適した調理場になるよう検討いただきたい。</p>
平野委員長	<p>事務局の説明が終わったが、意見・質問等があれば挙手にてお願いする。</p>
石井委員	<p>資料1-1で、食数が3,000食、2,500食、2,000食と分けられているが、最低限必要なのは何食か。</p>
吉原給食係長	<p>現在の児童・生徒・教職員数から見ると3,000食が適しているが、今後児童生徒の減少は避けられない。今ある資料では、平成34年度の児童生徒数まで予測でき、34年度は児童生徒数は2,353人となる。これを踏まえ3,000食から2,000食に分けて試算した。</p>
田中委員	<p>資料2のBTO方式等の説明がある。民間業者が維持運営を行うということで、市はどのくらいの負担になるのか。</p>
吉原給食係長	<p>木更津市がPFI方式、BTO方式により運営している。資金調達は民間となるが、民間負担分と市負担分については教えてもらっていない。</p> <p>仮に富津市がPFI方式を活用した場合、どのくらいコスト削減できるか業者に問い合わせたところ、食数がおよそ4,000食から5,000食でないと費用の元が取れないという回答だった。富津市は最大3,000食を想定している。現在調理業務も民間委託していることもあり、PFI方式といった民間を活用しても費用面では元が取れないという回答だった。</p>
千倉委員	<p>新築の場合、候補地はあるか。それにより環境整備に費用が掛かるのか。建物だけを考えたときは資料1-1の新築に二重マルが付いている意味が分かるが、最終的に費用に差額が出てしまうとこれだけで納得してしまっているのだろうかという不安がある。</p> <p>児童生徒が34年度には2,500人を割り込んでしまうということで、天羽中と天羽東中の再配置の市民説明会時にもあったが、人口的に少なくなっていくのは統計的に分かっている。これを見てどういうビジョンで学校を造っていくのか。学校の造り方により、</p>

	<p>この調理場の位置付けも変わっていくのかと思うと、そこが気に掛かる場所である。</p> <p>統廃合が進んでいったときに、どの場所に新築するのか十分に考えてほしい。10年後、15年後の富津市の学校をどのようにもっていくのか、教育委員会で意見交換した上で場所や形の選定を運営委員会の決定に加え、揉んでいってほしい。</p> <p>特に環南小、関豊小、環小が合併した地区の皆さんが一番心配していたのは、現在統計で出ている人数は出生時の人数であり、統廃合になったことによって、小学校に入学する前に出て行ってしまい、もっと減ってしまうという現象が起こってしまっている。これをこれから続けてしまったら、関豊地区は限界集落地区になってしまう。学校が無くなるということは、そういうことなんだということを熱く語っていたのが印象に残っている。ビジョンを持った学校配置とよく鑑みて、今後の検討をお願いしたい。</p> <p>どこに建てるか見通しはあるか。これから検討するのであれば、環境整備に掛かる費用もよく試算してほしい。</p>
能城教育部長	<p>調理場を建てるとなると、配送を踏まえ市の中心部が一番いい。</p> <p>現在、統廃合を進めているが、各地区に学校がある。なかでも天羽地区は広く、大佐和地区、富津地区となる。教育委員会では、この三地区にある学校の場所は、通学等を考えると今の位置にあるのがいいと考えている。これを鑑みて、建てる場所については市有地の中から今後の課題となってくる。</p>
千倉委員	<p>今からそこを見据えてリーダーシップを取り、「こういう方向にしたいからここに建てるんだ。」という話をしてもらえるようになると、市民の理解も違うのではないか。</p> <p>人口が少なくなっていくのは、市民が一番理解している。少なくなったなかで教育をすることによって心配を感じている。先がどうなるか分からないが、「今はとりあえず」という選択をしてしまったときに一層減ってしまうという恐怖感を感じる。</p> <p>新築するということは、解体の費用も発生する。跡地をどうするかという問題も後々残ってくる。</p> <p>これは給食だけではなく、富津市が抱えている問題だが、よく注意してほしい。</p>
田中委員	<p>出て行く人が増えないように、近隣三市と遜色がないかたちで新築か改修か決めていかなければならないと思う。今後を見据え、食物アレルギー対応設備だけは設置してほしい。逆にそうでないと、他市に行ってしまう理由になってしまう。</p> <p>差が出ないようにということと、財政上許される範囲で。財政が厳しいのであれば、ボランティアなどお金が掛からない工夫をしていかなければ難しいのではないかと思います。</p>

平野委員長	意見とする。
芥子委員	資料 1 - 2 にある年間ランニングコストだが、仮に 3,000 食の施設で 2,500 食作る場合、この金額よりも下がるのか。3,000 食対応の施設であっても 2,500 食ならば 2,500 食の金額なのか。 年間の施設維持なので 3,000 食の施設でこれだけ掛かるのか。
吉原給食係長	食数ごとの試算となっている。
石井委員	資料 1 - 1 にある付加価値設備について、新築するのであれば防災関係を考慮した施設を、また、地震等があっても使用できるよう付加価値を要した施設を、地盤等調査した上で新施設を希望する。
平野委員長	意見とする。
千倉委員	34 年に児童生徒数が 2,353 人になってしまうという説明であったが、3,000 食可能な施設を造っておかなければならないと思う。 調理場なので子供たちの給食を作ることが一番の目的であり、専属で作らなければならぬのかもしれないが、今の市の在り方からすると、そこで高齢者に向けたサービスなどを発信できたり、作れたりといった富津市独自の案を希望する。この先例例えば児童生徒が 2,000 人を割ってしまうようなことになったとしても機能していくために、富津市独自の考え方を見据えた協議がされたら喜ばしく思う。可能であれば他部署と協議してほしい。
平野委員長	意見とする。
和田委員	学校としては案 1 を希望する。安心してアレルギーに対応できるようにしてほしい。 食育の観点からも、付加価値設備を要した施設としてもらえるといい。子供たちが、自分たちが食べている物がどう作られているか見るということは大事なことである。 できれば 3,000 食対応の施設にし、子供が減ってしまうという傾向があるが、富津市として人口を増やしたいという希望があると思うので、減らすのではなく 3,000 食に近づけるようなまちづくりを力を入れてほしい。
金瀬委員	食物アレルギーの問題は本当に難しい。アレルギーへの対応が一人ひとり違うので、対応が果たしているのかどうか考えている。 以前は、調理場などを見学できたように思う。実際に見るということは大切なことなので、見学できる施設であってほしい。

川名委員	<p>市の人口は、北部が多く南部が少ないといった偏りがあるので、市の中心部に建てるというのは分かるが、再配置の問題もある。温かい給食を子供たちに食べさせてあげたいので、スムーズに配送できるような運営ができると非常にいいと思う。</p> <p>アレルギーは、大規模な学校の方に対応する子供が必然的に多くなってきており、大変な状況となっている。いろいろなことが関わってくるので、「これがいい。」となっても様々な問題を解決しなければならないと感じている。</p>
牧田副委員長	<p>自校調理場なので、調理器具に不備があってもすぐに対応できるので助かっている。</p> <p>千葉県から食育計画の資料が出ている。食育関係や安心安全を考えると用地さえあれば新築がいい。</p> <p>青堀小学校は、食物アレルギーを持つ児童が10人くらいいる。食物アレルギーへの対応や食の安全ということを考えると、やはり新築がいいと考えるが、費用について読み取れない。</p>
岡根教育長	<p>他市では食物アレルギーに配慮した給食を提供している。富津市はこのような対応をしていないので、市民サービスとして大丈夫なのかという話をしたことがある。</p> <p>青堀小学校は、保護者と学校が確認し、事故を防いでいるという実態である。重度のアレルギーではないので、大きな事故が起こることはないと思うが、今後どのような子供たちが入ってくるか分からない。危機管理上、担任や養護教諭、職員室と連携して事故を防がなくてはならない。</p> <p>アレルギー食が出せるようになっていても決して安心ではない。食を提供することが即安心ということではなく、事故防止には職員の連携が必要となるが、食を提供できるということは保護者にとっては喜ばしいことなのではないか。</p> <p>ただし、職員の配置が必要になり、施設の問題だけではなく考えると考える。</p>
吉原給食係長	<p>近隣市の食物アレルギー対応について説明する。</p> <p>袖ヶ浦市は、対応専用調理室がある。対応は、詳細な献立表での情報提供と、給食の対応ができない場合の弁当対応と、調理の過程で原因となる食材を取り除いた給食を提供する除去食対応を行っている。</p> <p>木更津市は、給食センターには対応専用調理室がある。対応は、情報提供、弁当対応、除去食対応を行っている。</p> <p>君津市は、現在の調理場には対応専用調理室はないが、新築する調理場には設置する予定と聞いている。対応は、情報提供と弁当対応を行っている。</p>

芥子委員	<p>富津市は、対応専用調理室はなく、情報提供と弁当対応を行っている。</p> <p>資料1に案1から4までであるが、誰が考えても案1が一番いいのではないかという結論に達すると思う。そのなかで、3,000食、2,500食、2,000食と考えるときに、人口が増える可能性も考えれば3,000食がいいのではないか。1食に対する値段を見ても、3,000食が一番安くできるのではないか。</p> <p>付加価値設備については、大切であり、あった方がいいという意見が多いが、富津市の財政次第ではなくてもいいのではないか。</p> <p>場所の手配や、人員配置等細かいところも必要になると思うが、現段階では案1か案2だと思っている。</p>
平野委員長	意見とする。
高橋委員	<p>建物等は耐用年数が決まっている。もう少し保たせるために延命措置するのか、新しく建てるのか、意見が分かれるところだと思う。どこかで資金が必要となる。資金を一番有効に使えるのはどの案か選択肢は決まっていると思う。</p>
千倉委員	<p>資料と今までの意見から、現時点の意見としては、「移転・新築」とし、3,000食対応で近隣市にあるアレルギー対応設備は設けるべきであり、付加価値設備についても見積金額に差がなく、子供たちの食育に必要であれば有りきだと思っている。</p> <p>改修を考えたときに、25年しか使えないとしているが、最低限度の補修をしながら繋いでいったときのランニングコストや工事費の掛かり方と、ある程度長期で使用するために補修していくやり方とでは工事費の掛かり方が違うと思う。</p> <p>今建てるべきなのか、今は最低限度の修理でまだ継続できる状況なのか、設備の状況が分からないのでこの資料から考えれば結論が出てきていると思う。本当に今建て替えなければならないのか。</p>
吉原給食係長	<p>既存の施設があと何年使えるか、正直なところ分からない。目に見えているところの老朽度は分かるが、水道管やガス管といった目に見えないところの老朽度は分からないので、判断するのは難しい。</p> <p>いつ頃建設するかについては、今後公共施設等総合管理計画を進めていくなかで、市の財政状況等を踏まえながら一番適した時期がいつなのか、教育部だけではなく富津市全体で協議していきたいと考えている。</p>
牧田副委員長	改修だけでもこんなに費用が掛かるのか。新築と変わらないのではないか。

吉原給食係長	<p>案3は、衛生基準に適合させるため床をドライシステムにするという条件で試算した。ドライシステムにするためには、一度床を剥がし、水を通すための管を埋めるという作業が必要となるので高額となる。</p>
千倉委員	<p>今のままで新しい設備を加えずに、安全に調理できる方法がないか考えてからでもいいのではないかと思った。いつ建てるか今は決められないということならば、せめて壁のひびや、もし雨漏りしているのであれば補修してほしい。</p> <p>建てることになると、検討の余地がないように計画が進んでしまうと思うが、建設地や時期などをどのようにするか検討させてほしい。「新築がよし。」と決めてしまったとき、状況が変わっていく時期に建てることにならないかということが懸念される。</p> <p>新築で建てた場合、耐用年数が50年あるといえ、メンテナンスをしなければ50年保つことはない。50年の耐用年数を全うするためには、途中途中にしっかりとメンテナンスを行っての50年だということをよく考えておかなければ、耐用年数より早く建て替えなければならないということになってしまう。</p> <p>新築する際にはしっかりと計画を立て、学校やPTAといった関係者と確認を行ってほしい。</p>
平野委員長	<p>3期目となり、1期目からこの問題に携わっている。当時から将来を見通して検討してきているが、財政をはじめいろいろな問題がある。ここで方向性が決まっても1年2年で建てて終わりということとはあり得ない。</p> <p>何か壊れてしまったとき、給食が止まってしまうこともあった。給食ではなく違う建物で、直接子供に関わらないところであれば、「少し不便だけれども、ここは使わずにやっつけていこう。」ということもできるかもしれないが、給食は違う。</p> <p>安全で安心な給食を子供たちに食べさせたいということを第一に委員の立場として考えると、案1が望ましいだろうと誰もが思う。いろいろな疑問や迷いもあるが、この方向でできる限りの対策、対応を考えながら進めていきたい。</p> <p>委員からたくさんの意見が出た。案1で進めていけば一番いいのではないかという意見が多かったと思うが、事務局はいかがか。</p>
吉原給食係長	<p>委員の皆さんから貴重な意見をたくさんいただいた。案1「移転・新築」で、子供が増えることを見込み食数3,000食対応の施設ということでもとめてよろしいか。</p>
平野委員長	<p>委員の皆さん、よろしいか。</p>

	＜「はい。」の声あり＞
平野委員長	このとおりとする。
吉原給食係長	本日の会議において、運営委員会の意見としては「案1 移転・新築」対応食数3,000食とする。 今後は、この案に基づき運営委員会から市へ提言していただくよう進めていきたいと考える。
平野委員長	議題（1）はこれで終了とする。 （2）その他について事務局の説明を求める。
吉原給食係長	事務局からは特に無い。
平野委員長	委員の皆さんからこの場で協議したい事項はあるか。
千倉委員	決定について異議はないが、ここで出た意見を庁内の検討会議に持って行ってほしい。 今日示された資料と今の根拠では賛成だが、今後違った方法が出てくる可能性はある。富津市の財政と見合った物を造っていくということが総意だと思うので、こういった意見が出たということ強く庁内へ知らせてほしい。
平野委員長	他に無いようなので、本日の議事は全て終了した。 議長の任を解かせていただく。
吉原給食係長	平成28年度第3回富津市学校給食運営委員会を閉会する。